

要緊急安全確認大規模建築物 耐震診断結果公表内容

◆学校(小学校、中学校、中等教育学校の前期課程、特別支援学校)

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
※	東近江市立●●●小学校	東近江市●●●町●●	小学校	① 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/Iso=1.15 C _{TU} ・S _D =0.58	② ③		耐震改修済

附表

耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	② I	II	③ III
① (一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」および「第3次診断法」(2001年版)	Is/Iso < 0.5 又は C _{TU} ・S _D < 0.15・Z・G・U	左右以外の場合	1.0 ≤ Is/Iso かつ 0.3・Z・G・U ≤ C _{TU} ・S _D
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」および「第4次診断法」(1990年版)	Is/Iso < 0.5 又は C _T ・S _D < 0.15	左右以外の場合	1.0 ≤ Is/Iso かつ 0.3 ≤ C _T ・S _D ≤ 1.25 又は 1.25 < C _T ・S _D
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is < 0.3 又は q < 0.5	左右以外の場合	0.6 ≤ Is かつ 1.0 ≤ q
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版)	Is < 0.3 又は q < 0.5	左右以外の場合	0.6 ≤ Is かつ 1.0 ≤ q

- I. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- II. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- III. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※)震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。
いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

例:「東近江市立●●●小学校」の安全性の評価

①「耐震診断の方法の名称」について、一覧表及び附表で一致するものを確認します。

②一覧表の「構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値を確認し、附表の「耐震診断の方法の名称」から「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価」欄で該当するものを確認します。

③数値を基準値と比較します。

$$Is/Iso = 1.15 \quad C_{TU} \cdot S_D = 0.58$$

$$1.0 \leq Is/Iso \quad \text{かつ} \quad 0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$$

(Z・G・U=1.0による)

安全性の評価は区分Ⅲとなります。

※Iso=0.6、Z(地域指標)=1.0(建築基準法施行令による)、U(用途指標)=1.0、G(地盤指標)=1.0(公表対象すべて、がけ地や軟弱地でないため)

※安全性の評価の結果については原則、最小値を記載しています。ただし、一棟で構造が異なる場合、又は、所有者が異なる場合等は部分毎に結果を記載しています。

※耐震改修済の数値については耐震改修後の値を記載しています。

